

# 1. 医学部教育

平成4年に導入された六年一貫教育のカリキュラムによる教育を受けた学生の卒業は4回目となった。これらの卒業生の評価を踏まえ、全国的な教育方法の変動とも対応するために、見直しと検討を進めて来た。更に、平成13年度から学士編入学してくる学生のためのカリキュラムの作成を行った。また、大学評価・学位授与機構による「平成12年度に着手する大学評価」の中で、分野別教育評価（医学系）の対象大学に選定され、全国の大学に先駆けて医学評価を受けることとなった。

## A 全学教育

平成9年の教養部の廃止以後、一般教養教育は全学部が協力して担当する委員会方式で運営されている。医学部は個別科目の人間科学分野の責任部局として運営を担っている。また、医学部からは、述べ132名の教官が人間科学分野を中心に6分野、27科目の授業を担当した（表1）。旧教養部教官の他学部への分属、あるいは担当教官の退任後の非補充などにより、総合大学としての教養教育の維持に支障を来している。その対策として平成14年度からの全学教育に大幅な変更を企画しており、その検討が11年度に引き続き12年度にも行われた。

## B 専門教育

入試制度に関しては、学士編入学試験が12年度から開始された。5名の定員に対し600名以上の応募者があり、3次試験により選抜された。3年生に編入されるため、予備教育のオリエンテーションを実施し、3月中旬から入学前教育を開始することにより専門教育への円滑な導入を図った。

医学部の専門教育は基本的には平成11年度と同じ時間割りで実施された（表2）。11年度入学の学生から、「医と社会」の教科を充実させ、1年から6年まで通して実施される教科目とし、この中で、「将来、医療に携わる上で大切なことを学び、また、学内外においての様々な活動を通じて社会に広く求められる人間性を養うこと」を目標と掲げた。リサーチセミナーにおいて海外の大学との学術協定に基づく、学生の海外での実習も3年目となり、今年度はビュルツブルク大学に1名、ライデン大学に2名、ミンスク大学に4名の計7名が海外での実習を体験した（表3）。学外の医療機関等での医学部学生の臨床教育の充実も図られ、協定病院や臨床教授・臨床助教授も増加した（表4）。平成12年度の6年次学生は102名であり、うち正規卒業生97名であり、卒業延期後卒業生は3名であった。新卒者の医師国家試験合格率は96.9%であった。

(平成12年度 医学部長 齋藤 寛、教務委員長 田口 尚、学生委員長 綾部公懿、  
入試委員長 丹羽正美)

(文責 田口 尚)

表1 平成12年度 医学部教官の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部教官

分野	授業科目	担 当 教 官
人 間 科 学 分 野	人間学A	福田久信、中山大介、野俣浩一郎、宮村泰豪、古賀成彦、酒井英樹
	生態機能学A	岩堀修明、松田好弘、中根允文、齋藤了一、澄川耕二、柴田尚武、辻田高宏、安永暁生、北岡 隆、徳永能治、上之郷眞木雄、中村龍文、調 漸、城丸みさと、笠 伸年、中尾善亮
	健康科学A	入江準二、関根一郎、塚崎直子、下川 功、原田孝司、下田照文、寺本 司
	ハンディキャップA	中根允文、藤井 徹、雨宮次生、平野明喜、城丸みさと、北岡 隆、松本智子、三根禎行
	人間学B-1	松坂哲應、福田雅文
	人間学B-2	中園一郎、下川 功、折原義行
	生体機能学B-1	栗山一孝、相川忠臣、松本逸郎、早野元信、山田恭暉、門田淳一、下田照文、芦澤直人
	生体機能学B-2	牧山和也、芦澤潔人
	生体防御B	片山一朗、鶴殿平一郎、由井克之、田中洋一、阿部庸次郎、清水和宏、濱崎洋一郎、右田清志
	生体と薬B	谷山紘太郎、丹羽正美、長谷場純敬、柴田 治、柳原克紀、佐々木均
基 礎 自 然 科 学 分 野	健康科学B	兼松隆之、中越 享、上平 憲、綾部公懿、古井純一郎、上谷雅孝、藤岡ひかる、江石清行、岡 忠之、東 尚、越智 誠、黒崎伸子、田島義証
	人類生態学B	竹本泰一郎
	統計学A	本田純久、近藤久義、柴田義貞、三根真理子
	統計学B	柴田義貞、三根真理子、近藤久義、本田純久
	化学実験B	由井克之、朝長万左男、津田亮一、貝原宗重、毎田徹夫、山下康子、中園一郎、上平 憲、菱川善隆、鶴殿平一郎、山田恭暉、栗山一孝、小路武彦、中山 亨
動物学B	永山雄二、山本一男、森内良三	
細胞生物学B	山下俊一、難波裕幸、小路武彦、松山俊文	

分野	授業科目	担当教官
基礎自然科学分野	動物生理学 B	相川忠臣、松田好弘、松本逸郎
応用自然科学分野	生物化学 A	毎田徹夫
	応用生物科学 B	奥村 寛、佐藤 浩
総合科目	現代の生命像 1	岩堀修明、由井克之、齋藤 寛
	現代の生命像 2	新川詔夫、兼松隆之、齋藤 寛
	長崎の自然・社会・文化	三根真理子
	火山と災害	竹本泰一郎
	放射能の光と影	林 邦昭
	情報と歴史	相川忠臣
一般情報処理科目	情報処理演習	三根真理子、本田純久
健康コンディショニング科目	コンディショニング	上平 憲、中田恵輔、芦澤直人、辻田俊也、辻田高宏、赤澤昭一、山口義彦、岡三喜男、榎田徹次、草場英介、諸岡浩明、山近史郎

B. 全学教育関連委員会の医学部委員

委員会	委員
全学教育実施委員会	田口 尚 (教務委員長) 上平 憲 片峰 茂 (人間科学分野専門委員会委員長)
分野・科目別専門委員会 ・社会科学分野文化人類学 ・人間科学分野 ・基礎自然科学分野 ・応用自然科学分野 ・総合科目 ・一般情報処理科目 ・外国語関連科目 ・健康コンディショニング科目 ・留学生用科目	長島聖司 小路武彦、綾部公懿、片峰 茂 柴田義貞、山下俊一 由井克之 岩堀修明 柴田義貞 小林俊光 進藤裕幸 片山一朗

表2 平成12年度 1～5年次授業科目(系)責任者

学年	授業科目	責任者
1年次	医と社会(医学入門)	綾部公懿
	人間生物学	小路武彦
	人体構造系Ⅰ	長島聖司
2年次	医と社会	綾部公懿
	人体構造系Ⅱ	長島聖司
	動物性機能系	松田好弘
	内臓機能・体液系	相川忠臣
	生体分子系	毎田徹夫
	神経・感覚器系	岩堀修明
	発生・組織系	小路武彦
3年次	分子遺伝系	奥村寛
	病理総論系	田口尚
	感染症系	片峰茂
	腫瘍系	松山俊文
	免疫系	由井克之
	分子病態総論	近藤宇史
	環境因子系Ⅱ	齋藤寛
	薬理学Ⅰ	谷山紘太郎
	循環器系	矢野捷介
	呼吸器系	河野茂
	消化器系	関根一郎
	血液・リンパ系	朝長万左男
4年次	中毒・物理的要因系	竹本泰一郎
	薬理学Ⅱ	谷山紘太郎
	脳・神経系	中村龍文
	腎・泌尿器系	田口尚
	内分泌・代謝・栄養系	赤澤昭一
	生殖系	石丸忠之
	運動系	進藤裕幸
小児診断学	小児系	森内浩幸
	診断学	矢野捷介

学年	授業科目	責任者
4年次	外科治療学	兼松隆之
	感覚系(眼科学)	雨宮次生
	感覚系(耳鼻咽喉科学)	小林俊光
	皮膚・結合組織系	片山一郎
	精神系	辻村徹
	社会医学	齋藤寛、竹本泰一郎
	内科総括講義	江口勝美
	外科総括講義	兼松隆之
5年次	臨床検査医学総括講義	上平憲
	リサーチセミナー	松山俊文
	法医学	中園一郎
	社会医学	竹本泰一郎、齋藤寛
	総合病理学	田口尚
	内科総括講義	江口勝美
	精神神経科総括講義	中根允文
	小児科総括講義	森内浩幸
	外科総括講義	兼松隆之
	整形外科総括講義	進藤裕幸
	皮膚科総括講義	片山一郎
	泌尿器科総括講義	金武洋
6年次	眼科総括講義	雨宮次生
	耳鼻咽喉科総括講義	小林俊光
	放射線医学総括講義	林邦昭
	産婦人科総括講義	石丸忠之
	麻酔科総括講義	澄川耕二
	脳神経外科総括講義	柴田尚武
	形成外科総括講義	藤井徹
心臓血管外科総括講義	江石清行	
臨床検査医学総括講義	上平憲	
医と社会(医療科学Ⅰ)	中根允文	

表3 平成12年度 4年次後期「リサーチセミナー」

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	岩堀修明	神経細胞の配列様式	2
解剖学第二	長島聖司 分部哲秋	人体の局所解剖	1
	岡本圭史 佐伯和信	人体の局所解剖	2
解剖学第三	小路武彦 菱川善隆 和泉伸一 進正志	環境ホルモンの雌雄生殖細胞動態への影響	1
生理学第一	松本逸郎	各種ストレスによる摂食障害とその改善（ラットを用いて）	2
		大腸菌内毒素による副腎髄質ホルモン分泌促進のメカニズム解析とグルココルチコイドによる抑制	1
生理学第二	藤村幸一	ラット感覚運動野における脳梁入力機能	1
生化学	中山享	ニワトリ骨格筋ミオシンS-1の立体構造モデリング	1
	林原歳久	成人T細胞白血病とマトリックスメタロプロチナーゼ	1
薬理学 (第一)	丹羽正美 アブラハム・チョン ゴル・シャンドラ	神経細胞死と血液脳関門	2
	永山雄二	癌遺伝子治療	1
	山下康子	虚血性神経細胞障害におけるグリア細胞の役割	1
	中桶了太	血液脳関門の研究	1
薬理学 (第二)	谷山紘太郎 貝原宗重	受容体およびイオンチャンネルの研究 ——クローニングとその発現	4
	上園保仁	末梢組織における受容体の機能	3
病理学第一	下川功	ラット胃におけるグレリンの免疫組織化学	1
	下川功 土谷智史	ラット肝臓におけるNF- $\kappa$ B/I- $\kappa$ Bの免疫組織化学	1
	樋上賀一	加齢に伴うラット腎尿細管のapoptosis	1
		リンパ性疾患におけるアポトーシス	1
病理学第二	田口尚	腎臓病理学	2
衛生学	高橋達也	長崎市の被爆者の癌発生についての研究	1
	有澤孝吉	一般日本人の血中ダイオキシン濃度とその関連要因	1

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
公衆衛生学	竹本 泰一郎	南米熱帯低地における日系人児童の発育	1
	青柳 潔	地域高齢者の転倒	2
	永田 耕司	保健・医療・福祉におけるコミュニケーション	4
	草野 洋介	低用量ピル解禁と HIV、STD 増加の有無との関係の研究	2
医動物学	由井 克之	マラリアワクチン開発の基礎研究	1
	鵜殿 平一郎	ストレス蛋白の分子生物学的特性に基づく新規癌ワクチン作製	2
	塚田 晃三	T細胞アナジの分子機構	1
	本間 季里	ストレス蛋白 hsp70リセプターの同定	1
法医学	中園 一郎 津田 亮一 折原 義行 池松 和哉	血液型の研究	2
原研病理	関根 一郎	急性放射線結腸炎に対する乳製品注腸の効果	1
	中島 正洋	放射線誘発大腸癌における $\beta$ -catenin と APC の組織内発現の検討	1
	中山 敏幸	胃癌における tie-1、2 遺伝子発現の検討	1
原研放射	岡市 協生	放射線に対する p53の応答	1
	井原 誠	熱失活 DNA-PK の回復	1
原研生化	近藤 宇史 浦田 義重	グルタレドキシシンとレドックス	1
原研疫学	柴田 義貞 本田 純久	放射線被曝の健康影響に関する疫学的研究	2
原研遺伝	松本 直通	高度肥満症の原因遺伝子の解明	1
	吉浦 孝一郎	骨リモデリングにおける TGF $\beta$ 1 遺伝子の役割	1
原研細胞	山下 俊一	放射線と健康	1
	難波 裕幸	甲状腺がんの分子機構	2
	大津留 晶	遺伝子治療の基盤研究	2
感染防御	山本 一男	インターフェロン調節因子ファミリーの解析	2
感染分子	片峰 茂	プリオン複製の分子機構	2
	森内 良三	HTLV-I による発癌分子機構	2
	坂口 未廣	プリオン類似蛋白の機能	1

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
動物実験施設	佐藤 浩 大沢 一貴	遺伝子組換え技術を応用したリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス 診断用抗原の作製	1
熱帯医学研究所			
分子構造	森田 公一	フラビウイルスのリコンビナントウイルスの作製	2
病原因子	平山 壽哉 和田 昭裕	Hericobacter pylori の病原因子	2
感染細胞	神原 廣二 柳 哲雄	長崎県におけるクリプトスポリジウム症疫学	2
	上村 春樹	トランスシアリダーゼのシャガス病診断への応用	1
寄生行動	青木 克己 渡部 幹次	住血吸虫ミラシジラムの走化性	1
	藤巻 康教	糸状虫感染幼虫の走化性	1
炎症細胞	中村 三千男 熊取 厚志	新奇ミスマッチ修復機構の解析	1
病変発現	鳥山 寛	肝疾患の臨床病理学的研究	2
	井関 充及	脳腫瘍の病理組織学的研究	2
生物環境	高木 正洋 津田 良夫	デング熱媒介蚊ネッタイシマカの形態多型と適応度	2
社会環境	溝田 勉	熱帯医学と国際保健の相互連携	1
	谷村 晋	地理情報システムを利用した保健医療資源配分の評価	1
疾病生態	大渡 伸	紫外線 (UV-B) 曝露による皮膚組織障害	1
資料情報センター	嶋田 雅暁	住血吸虫症の調査研究	2
	鈴木 博	野外調査による恙虫病媒介種の生態学的研究	4

## 海外実習生

大 学 名	実 習 学 生 数
1 ライデン大学	2
2 ビュルツブルク大学	1
3 ミンスク医科大学	4

表4 A. 平成12年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

	施設名	協定年月日
1	日本赤十字社長崎原爆病院	平成8年5月31日
2	長崎県立大村病院	平成8年6月1日
3	長崎県総合保健センター	平成8年6月1日
4	長崎市立市民病院	平成8年6月1日
5	長崎市立病院成人病センター	平成8年6月1日
6	長崎市障害福祉センター	平成8年6月1日
7	長崎北病院	平成10年5月20日
8	江上耳鼻咽喉科	平成11年5月31日

B. 平成12年度長崎大学医学部臨床教授、臨床助教授、臨床講師一覧

称号	氏名	施設名
臨床教授	辻 畑 光 宏	医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	佐 藤 聡	医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	楠 本 征 夫	長崎市立市民病院
臨床教授	宮 田 昭 海	長崎市立市民病院
臨床教授	鈴 木 伸	長崎市立市民病院
臨床助教授	富 増 邦 夫	長崎市立市民病院
臨床教授	天 野 実	長崎市立市民病院
臨床教授	本 山 和 徳	長崎市障害福祉センター
臨床教授	富 田 弘 志	長崎県総合保健センター
臨床教授	田 浦 幸 一	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	須 山 尚 史	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	江 上 徹 也	江上耳鼻咽喉科
臨床教授	千 葉 憲 哉	西諫早病院
臨床助教授	植 木 幸 孝	佐世保中央病院